

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和4年4月20日

提出区分	実績	整理番号	3	課題区分	C			
横断的な課題	「体験」と「交流」を軸とした「地域の特長を生かした広域観光」の推進							
地域重点政策	・地域資源を生かして県経済をけん引する「活力あふれる」長野地域づくり ・「人が集い、文化薫る」魅力ある長野地域づくり							
実施機関	長野地域振興局企画振興課		担当課	所属	長野地域振興局企画振興課			
事業名	移住・二地域居住・交流推進事業		電話	026-234-9501				
			E-mail	<a href="mailto:nagachi-kikaku@pref.nagano.lg.jp">nagachi-kikaku@pref.nagano.lg.jp</a>				
事業の概要	目的 (目指す姿)	新型コロナウイルスの感染拡大を機に地方回帰の機運が高まる中、改めて移住先として選ばれる地域づくりや移住政策について検討する必要があるため、本事業を通じてコロナ禍での新たな移住政策(取組)の方向性を見出す。						
	現状と課題	・移住政策は、単に「移住者を増やすこと」だけでなく、移住者が移住先で生き生きと生活ができ、そして「地域全体が元気になること」が重要。 ・移住を受け入れる者の発想(理想)だけでなく、移住者(現実)目線による、移住ニーズに合った政策を推進していく必要がある。(地方と都会の意識のギャップを埋める) ・地域の情報(魅力)発信力を高め、移住ニーズへの効果的・効率的な情報発信が必要。 ・地域の若い世代に将来も地域との関わりを持ち続けてもらうことが重要。 ・今後、こうした現状を踏まえて、アフターコロナ、ウィズコロナの時代を見据えた移住政策や地域づくりをどのように進めていくかが課題。 ・また、地方移住を考える方にとって「仕事(就業できるかどうか)」や「人間関係」が不安(課題)であるとのアンケート結果があり、これらが移住者にとって課題となっていることがうかがえる。						
	内容	・移住先として選ばれる理想の長野地域やそのための必要な施策について、長野地域の地域おこし協力隊や大学生、UIJターンにより就職した市町村職員によるワークショップ形式で検討を行う。 ・実際に長野地域へ移住された方々に参加していただくことで、実践的な検討の場とする。 ・ワークショップのコーディネーターを、株式会社ふるしきや代表取締役の田村英彦氏に依頼。 <table border="1"><tr><td>開催日時</td><td>令和3年11月27日(土)12時半～16時半</td></tr><tr><td>開催場所</td><td>県立長野図書館学び・創造ラボ</td></tr></table>				開催日時	令和3年11月27日(土)12時半～16時半	開催場所
開催日時	令和3年11月27日(土)12時半～16時半							
開催場所	県立長野図書館学び・創造ラボ							
事業期間	令和3年7月1日		～	令和4年3月31日				
事業費等	(単位:円)							
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考				
	地域おこし協力隊や大学生、移住者らによるワークショップ「移住アイデアソン」の実施	移住アイデアソン 講師及び参加者への謝金等	116,912	○報償費(参加者、コーディネーター) 110,600円 ○旅費(コーディネーター) 6,312円 ※単価については、過去の同様の取組の実績及び統一単価より算定 ※その他の参加者 地域おこし協力隊、市町村職員(若手、UIJターン職員)				
	〃	移住アイデアソン 消耗品	0	ふせん、模造紙、名札等				
	合計		116,912					
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況			
	R3長野地域 移住者数		350名以上	366名	● 達成			
			(R2)341名		○ 一部達成 ○ 未達成			
事業実績	【実績】 ○令和3年11月27日(土)に、県立長野図書館において、大学生・地域おこし協力隊・市町村職員・ゲストハウス運営者等計23名に参加いただき、移住アイデアソンを実施した。アイデアソンにおいては、グループ毎に分かれ、「長野地域の良いところ」「移住/移動理由」「こうなったらいいな」といったテーマでグループ毎に意見を出し合ったほか、それらを踏まえ、長野地域が移住先として選ばれるための施策アイデアをグループごとにまとめ、発表を行った。グループごとの発表を踏まえると、理想な地域像として互いを理解し支え合う多様性が育まれる長野地域を目指すべきとの方向性が見いだせた。その実現のためには、住んでいる人や住みたい人の「情報網や人的ネットワークが広がる積極的な地域づくり」が必要で、また市町村単位だけでなく広域的な取組の重要性も見えてきたので、今後局として必要な取組を行っていく予定。 【成果】 ○実際の移住者や地域で移住定住の施策に当たられている方々の「生の声」を聞き、長野地域における移住等促進の課題を見いだせた。また意見交換を通して課題解決のために必要なことや具体的なニーズに対する意見も収集することができた。 ○局として、長野地域全体の移住促進に必要な施策のアイデアを掴めたことは大きな成果であり、今後は市町村や関係者等とさらに協働を強めアイデアを膨らませていくことを通じて、これを具体化し、実施していく必要がある。							
今後の方向性	令和4年度の地域振興推進費事業において、出されたアイデアをもとにした移住・交流促進の具体的施策を検討・実施予定。							